

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

## 病虫害発生予察情報について (予報第6号(10月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

### 《特に注意》

- 【バラ科果樹】 クビアカツヤカミキリ
- 【きゅうり等】 コナジラミ類
- 【野菜・花き類】 オオタバコガ

### 《10月の予報概要》

#### A 水稲

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲 (収穫後防除)	ジャンボタニシ				

#### B 果樹類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう (収穫後防除)	べと病				
	褐斑病				
	ブドウトラカミキリ				
もも (収穫後防除)	せん孔細菌病				
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ (発生に注意)				
みかん	黒点病				
	ミカンハダニ				
	ミカンサビダニ				
果樹類全般	果樹カメムシ類				

#### C 野菜類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす	褐紋病				
	うどんこ病				
	アザミウマ類				

品目	程度				
	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きゅうり (施設抑制)	べと病				
	うどんこ病				
	褐斑病				
	ミナミキイロアザミウマ				
	黄化えそ病 (発生に注意)				
				コナジラミ類	
	退緑黄化病 (発生に注意)				
トマト・ミニトマト (施設)	葉かび病・すすかび病				
				コナジラミ類	

#### D 野菜・花き類

品目	程度				
	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜・ 花き類				シロイチモジヨトウ	
				ハスモンヨトウ	
				オオタバコガ	
	コナガ				
	アブラムシ類				

#### 《(参考)10月の気象予報》

気温	低い (20%)	平年並 (30%)	高い (50%)
降水量	少ない (20%)	平年並 (40%)	多い (40%)
日照時間	少ない (40%)	平年並 (40%)	多い (20%)

(大阪管区气象台9月29日発表)

#### A 水稻 (収穫後の防除について)

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	発生に注意	<b>[注意すべき事項]</b> ・稲刈り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて越冬貝を減らす。 ・耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。

#### B 果樹

##### 1 ぶどう (収穫後の防除について)

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	発生に注意	<b>[注意すべき事項]</b> ・落葉の組織内で胞子の状態で越冬する。 ・落ち葉や被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。 ・本病の多発したほ場では、収穫後の防除を徹底する。
褐斑病	発生に注意	<b>[注意すべき事項]</b> ・被害枝や葉に付着した病原菌が越冬し、翌年、再び風雨により飛

		<p>散し、感染・発病する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・枯枝や落ち葉、被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。</li> </ul>
ブドウトラカミキリ	発生に注意	<p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼虫が枝の内部を食い進み、被害を受けた部分は黒くなる。糞は外に排出しない。</li> <li>・せん定枝や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。</li> <li>・収穫後の防除を徹底する。</li> </ul>

## 2 もも（収穫後の防除について）

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	発生に注意	<p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落葉の痕部や枝の組織内で越冬する。</li> <li>・薬剤防除の際は、事前に秋期せん定を行い、薬液がかかりやすくしてから、ムラがないように散布する。</li> <li>・収穫後も被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。</li> <li>・本病の多発したほ場では、収穫後の防除を徹底する。</li> </ul>

## 3 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス（幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる）を排出する。6月～8月に成虫が羽化する。</li> <li>・フラスの発生を見逃さないようにほ場をよく見回る。</li> <li>・フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。</li> </ul>

## 4 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	やや少ない～ ～平年並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月の巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> <li>・10月の降水量は平年並～多いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月～10月に降雨が多いと発生が多い。</li> <li>・枯枝をせん定し、ほ場外に持ち出し処分する。</li> <li>・収穫前日数の長い薬剤については、防除時期に特に注意する。</li> <li>・QoI 剤、SDHI 剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。</li> </ul>
ミカンハダニ	平年並～ やや多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月の巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・10月の気温は高いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>・薬剤散布を行う際には、葉裏にも薬液がかかるように散布する。</li> </ul>

ミカンサビダニ	平年並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月の巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・ 10月の気温は高いと予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>
---------	--------------	---

## 5 果樹類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
果樹カメムシ類	平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。</li> <li>・ 9月の予察灯への飛来虫数は平年並であった。</li> <li>・ 10月の気温は高いと予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ほ場により飛来量は大きく異なる可能性があるため、カメムシ類の活動が活発になる夕方に園内を見回り、発生及び被害状況を確認する。発生を認めたら、速やかに薬剤防除を実施する。</li> <li>・ 薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。</li> </ul>

## C 野菜類

### 1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
褐紋病	平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月の巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・ 10月の降水量は平年並～多いと予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 葉や茎に褐色の病斑ができる。果実では褐色で円形の斑点ができ、進展すると腐敗する。さらに病状が進むと柄子殻という小さな黒点を形成する。</li> <li>・ 特に露地の水なすで発生しやすい。</li> <li>・ 盛夏過ぎから被害が増える傾向にある。</li> <li>・ 病原菌は被害植物とともに土壤中に残り、次作の伝染源となる。</li> <li>・ 発病を確認したら柄子殻（小黑点）が作られる前に直ちに発病部位を取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。</li> <li>・ QoI 剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。</li> </ul>
うどんこ病	平年並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月の巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・ 10月の降水量は平年並～多く、日照時間は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 窒素過多で気温が 25～28℃、湿度が 50～80% で日照不足が続くと発生しやすい。</li> <li>・ 薬剤耐性菌が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤、SDHI 剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。</li> </ul>

アザミウマ類	平年並～ やや多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月の巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・ 10月の気温は高いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ほ場及び周辺の除草を行う。</li> <li>・ 葉の被害に注意し、少発生時の薬剤散布を徹底する。</li> <li>・ 感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>
--------	--------------	---

## 2 きゅうり

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	やや少ない ～平年並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月の巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> <li>・ 10月の降水量は平年並～多いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気温 20～24℃で発生が多い。</li> <li>・ 排水を良好にし、多湿・結露を避ける。</li> <li>・ 薬剤耐性菌が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤、SDHI 剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。</li> <li>・ 予防散布が大切である。</li> </ul>
うどんこ病	平年並～ やや多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月の巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・ 10月の降水量は平年並～多く、日照時間は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設栽培で、日照不足、乾燥時に発生が多い。</li> <li>・ 昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。</li> <li>・ 被害葉を除去し、風通しを良くする。</li> <li>・ 薬剤耐性菌が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤、SDHI 剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。</li> </ul>
褐斑病	やや少ない ～平年並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月の巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> <li>・ 10月の降水量は平年並～多く、気温は高いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高温、多湿の施設栽培で発生が多いことから、施設内の換気を良好にする。</li> <li>・ 被害葉、老化葉は早めに除去する。</li> <li>・ 初期防除が重要である。</li> <li>・ QoI 剤、SDHI 剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。</li> </ul>
ミナミキイロ アザミウマ	平年並～ やや多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月の巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・ 10月の気温は高いと予想されている。</li> </ul>

		<p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生初期は、葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。</li> <li>・ミナミキイロアザミウマは、キュウリ黄化えそ病などのウイルスを媒介する。</li> <li>・施設の開口部を0.8mm目合いの赤色ネット又は0.4mm目合いの白色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。</li> <li>・ほ場及び周辺の除草を行う。</li> <li>・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>
黄化えそ病	発生に注意	<p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キュウリ黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス(MYSV)によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか、しろりり、にがうり等に感染する。</li> <li>・MYSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を示す。</li> <li>・MYSVに対する有効な薬剤はないため、媒介昆虫であるミナミキイロアザミウマの早期発見・早期防除に努め、防除を徹底する。</li> <li>・発病株はほ場外へ持ち出し処分する。</li> </ul>
コナジラミ類	やや多い ～多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月の巡回調査では、発生はやや多かった。</li> <li>・10月の気温は高いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。</li> <li>・施設の開口部を0.4mm目合いの防虫ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。</li> <li>・ほ場及び周辺の除草を行う。</li> <li>・タバココナジラミは、キュウリ退緑黄化病のウイルスを媒介する。</li> <li>・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>
退緑黄化病	発生に注意	<p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キュウリ退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス(CCYV)によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか等に感染する。</li> <li>・CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。</li> <li>・CCYVに対する有効な薬剤はないため、媒介昆虫であるタバココナジラミの早期発見・早期防除に努め、防除を徹底する。</li> <li>・発病株はほ場外へ持ち出し処分する。</li> </ul>

### 3 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・ すすかび病	平年並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月の巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・10月の降水量は平年並～多いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多湿条件で発生しやすい。</li> <li>・すすかび病は近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが</li> </ul>

		<p>黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被害茎葉は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。</li> <li>多発時には、防除が困難であるため、予防的散布が大切である。</li> <li>薬剤耐性菌が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤、SDHI 剤は、1 作 1 回程度の使用に努める。</li> </ul>
<p>コナジラミ類 (トマト黄化葉巻病)</p>	<p>やや多い ～多い</p>	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>9月の巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>10月の気温は高いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>吸汁による果実の着色異常のほか、すす病、タバココナジラミによるトマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV) の媒介など様々な被害を引き起こす。TYLCVに対する有効な薬剤は無いため、媒介昆虫であるタバココナジラミの早期発見・早期防除に努め、防除を徹底する。</li> <li>施設栽培では、開口部を0.4mm目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。</li> <li>ほ場及び周辺の除草を行う。</li> <li>薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>トマト黄化葉巻病の発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。</li> </ul>

#### D 野菜・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨトウ	やや多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>9月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、一部地域で多かった。</li> <li>10月の気温は高いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努めるとともに、葉の内部へ潜り込む前に防除を行う。</li> <li>薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用を避ける。</li> </ul>
ハスモンヨトウ	平年並～ やや多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>9月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、平年並であった。</li> <li>10月の気温は高いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。</li> <li>薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>

オオタバコガ	やや多い ～多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地域で多かった。</li> <li>・ 10月の気温は高いと予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広食性で、多くの作物を加害する。</li> <li>・ 発生初期（若齢幼虫期・食入前）に防除を徹底する。</li> <li>・ 幼虫の捕殺は、被害軽減効果が大きい。</li> <li>・ 摘除した茎葉や果実にも、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場から持ち出し処分する。</li> <li>・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>
コナガ	やや少ない ～平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、やや少なかった。</li> <li>・ 10月の気温は高いと予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼虫による被害が著しいのは春と秋である。</li> <li>・ 発生初期に防除を行う。</li> <li>・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。</li> </ul>
アブラムシ類	平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月の巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・ 9月の黄色水盤への誘殺虫数は、やや少なかった。</li> <li>・ 10月の気温は高いと予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては大きな被害をもたらす。</li> <li>・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailservicemusikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。



●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>